

第58回 公開講座

多文化共存の時代へ向けて

— <英語一極化>に対する欧州連合（EU）の言語教育政策 —

日時 2009年6月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 すぎたに まさこ
杉谷 眞佐子（外国語学部教授）

グローバル化の進展と共に、人々の移動が様々な領域で生じている。その結果、異なった文化の出身者、異なった言語の話者と共に生活し、仕事を行う事態が増している。統合が進むヨーロッパにおいてその傾向は著しい。

戦後、平和なヨーロッパを築くべく1949年独仏国境のストラスブールに創設された「欧州評議会」は、相互理解を進める上で「外国語教育は平和教育の重要な手段」と位置づけ「言語政策部局」を設置し、お互いの言語を学ぶための諸政策を1960年代半ばから外国語教育の専門家を交えて推進してきた。その過程で開発された『しきいレベル』は、その後各言語で作成され、ヨーロッパにおいてコミュニケーション・アプローチの基盤となっている。

それから30年以上を経て2001年に公開された『外国語学習・教授・評価のための欧州言語共通参照枠』（略称CEFR）は、社会で多くの言語が話される「多言語主義」（Multilingualism）に対し、個人のなかで母語以外に複数の言語が有機的に学習され使用される「複言語主義」（Plurilingualism）という新概念を打ち出し、母語以外に複数の外国語（言語）が使用できるようになることを目標に、「能力評価」、「異文化対応能力」、「言語学習能力」など複合的なコンピテンシーの育成を重視し、「欧州言語ポートフォリオ」の具体的モデルを提示している。

統合を進める「欧州連合」では、1995年文部閣僚会議の議を経て欧州委員会が「母語プラス2外国語」という「欧州市民の3言語主義」の提言を盛り込む「知識基盤型社会へ向けて」という白書を発表した。2002年3月バルセロナでの欧州首脳会議（European Council）の合意録では、「外国語教育の方法を改善し、母語と並び中等教育段階修了までに少なくとも2外国語を学習する」趣旨の政策推進が明記され、加盟27カ国は様々な方法でその実現へ向け努力している。このようにEUはグローバル化する社会で複数の言語学習を奨励し、複雑化する社会での多面的な学習能力の育成・向上を目指している。

英語を共通言語に統一すればはるかに経済的であるにも拘らず、政治的決断として多言語主義・複言語主義をとる27カ国体制のEUの外国語教育政策は、単に「言語距離の近さ」のみでは説明できない。困難な挑戦に立ち向うEUの理念と外国語教育政策の関係を考察する。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。

手話通訳が必要な場合は、6月11日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第59回 10月23日（金）13：00～14：30「障害者雇用に取り組む企業のHRM」

第60回 11月27日（金）13：00～14：30「2008年関西大学学生の意識調査からみたジェンダー（仮題）」

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680

吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>